

中高生世代の居場所支援

(担当：こども家庭部 子育て支援課 土支田児童館)

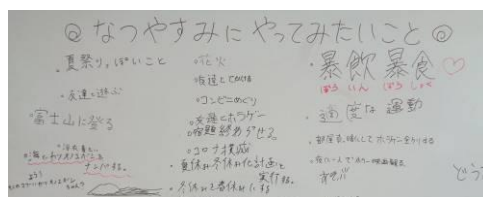
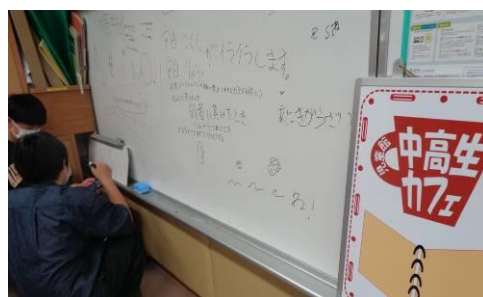
事業の背景・目的

- ・練馬区では、「中高生の居場所づくり事業」として開館時間を通常より延長し、中高生専用の時間帯を設定している。思春期に入った中高生は、熱心に取り組んでいる活動の練習の場や、仲間と集いリラックスして過ごせる居場所を求めている。また大人から関心を向けられ、話し相手になってもらったり、小学生との違いを認めてもらうことも求めている。練馬区の児童館では、そうした世代の特性を理解しながら、中高生の気持ちに寄り添った支援として「中高生の居場所づくり事業」を行っている。
- ・令和2年度以降、この時間帯に、相談機能を強化した「中高生カフェ」を実施している。「中高生カフェ」は喫食し友達や職員と気軽に会話をしながら、児童館の事業についての提案をしたり、悩みや思春期の戸惑いなどを気軽に相談するなど、環境・精神の両面から中高生をサポートしていくことを目的にしている。

事業の概要

【事業の実施方法】

- ・各児童館では中高生タイムとして、開館時間を19時または20時まで延長し、開催曜日や回数は各館の状況に合わせて、中高生が来館しやすい曜日を設定している。「中高生カフェ」では、中高生と一緒にクッキングを楽しんだり、一口菓子やリクエストがあったものを飲食しながら会話を楽しむほか、テーマを決めて参加者が思い思いに話をするなど、職員も会話に加わり一緒に話を聞きながら実施をしている。土支田児童館では、ホワイトボードに自分の気持ちも含めて書き込むなど、中高生が職員や仲間たちと会話を広げやすくなるよう工夫している。中高生世代特有の「内に秘めた思い」を引き出し、共感し、中高生の気持ちに寄り添うことを大切に、相談の内容によっては関係機関と連携して支援を行っている。



工夫点・留意点

- ・ルールはわかりやすく、守りやすく単純にする。中高生限定の特別なルールを設定する。
(例：中高生タイムだけ飲食できる部屋の設定や、中高生だけ使用できるテレビゲームの用意)
- ・ダンスや音楽、スポーツに関わる物品は、中高生専用の物品も用意する。
(例：ダンス用の大型ミラーや、ギターなどの楽器、成人用のボールやラケット)
- ・自分の気持ちを素直に出せるよう、日頃からコミュニケーションをとり、良好な関係を構築する。中には人との気持ちの距離を縮めることに時間を要する子もいるため、個々の性格なども理解していく。
- ・中高生の居場所づくり事業は、中高生本人たちはもとより、学校を含む地域の方々に、学校でも家庭でもない第三の居場所として理解してもらうことが不可欠になる。ウェブやポスター、おたよりなど多方面の媒体を活用してPRするとともに、学校や地域の方々と直接顔をあわせて伝える機会を積極的に作っていく。

事業の効果

- ・ちょっとした会話の中から、サポートが必要な家庭であると推察したため関係機関につなぎ、多方面からのサポート体制を築くきっかけを作ることができた。
- ・運営協力会などに参加し続けたことで、「中高生の居場所づくり事業」についての理解が深まり、近隣中学校でのコミュニティスクールで新たに中高生の居場所支援の出前事業を開始することができた。



課題・今後の展開

- ・中高生は児童館の日程に自分のスケジュールを合わせづらいことが多い。十分に中高生の声を聞き、気軽に参加しやすいスケジュールを見つけ出していく。
- ・中高生向けのお便りの配布や出前中高生カフェの継続等を通して、児童館と学校との良好なつながりを維持発展させていく。
- ・中高生の居場所づくり事業や中高生カフェについて広く知らせていくために、どのような方法があるか模索し、近隣の中学校や、児童館とのつながりが希薄になりやすい高校へ向けて、積極的にPRしていく。